

「まじめ」という言葉

「まじめ」という言葉の使い方には、ここ数十年の間に、二つの変容が見られる。ひとつは「まじめ」という意味の否定的な使い方であり、もう一つは「マジ」という言葉の出現である。

「まじめ」は、辞書では次のように定義されている。

まじめ【真面目】①ふざけた気持ちでなく、本気である様子。「まじめな顔をして話す」②まごころがあって、誠実なこと。「まじめに働く」⇔
不真面目▲「まじまじとものを見る目」の意味からできた語

おおのしんやへん かどかわひつげいこくごじてん
(大野晋也編 (1995) 『角川必携国語辞典』)

このように、「まじめ」は本来、プラスの評価を意味する言葉である。しかし、近年、特に若者の間では、マイナスの意味で使う用法が増えている。例えば、「Aさんはどんな人？」と聞かれ、「まじめな人」と答えれば、それはAさんをほめた表現のはずである。だが、最近では、「まじめなだけで、冗談もわからないつまらない人」という意味で使われることも多くなってきたのである。これは一体どのような事情によるのだろうか。

せんごく れきしてき へんせん とお わかものかちかん ぶんせき
千石 (1991) は歴史的な変遷を通し、若者価値観を分析しているが、これについては、1977年頃の意識調査から明らかな変化がみられると述べてい

る。千石によれば、1960年代日本は高度経済成長への道を歩んでおり、

人々はまじめに努力し、勤勉に目的に向かって働いていた。欧米に追い

つけ追い越せのこの時代には、学ぶことに価値があり、勉強がよくできる人

はみんなに尊敬され、クラスのリーダーとなった。しかし、1973年には第1次

オイルショックが日本を襲い、経済は低成長期を迎えた。このころから

勤勉であることの価値が大いに揺らぎ、子どもたちの間でも勉強のでき

る子はあまり好かれなくなった。また、子どもらは耐える、努力する、練習

するといったそれ自体に面白みがないことにはその価値を拒否しだしたとい

う。そして、テレビの世界では、まじめに働くよりも「遊びたい」「おいし

いものを食べたい」「面白いことをしたい」という人々のホンネを率直に語

るタレントに人気が集まった。そのころから、「まじめ」というタテマエは

崩壊したという。

千石のこの説明に従えば、おそらくこの時期に「まじめ」という言葉に

否定的な要素が加わったと考えることができるだろう。すなわち、社会的

背景の中で、「まじめ」であることの価値が低下し、それにともない、「まじ

め」という言葉自体にも新しい意味が生まれたと思われる。

一方、「本当」「本気」の意味を表し、疑問文によく現れる「マジ」に

ついては、いつどこから使われだしたのか、詳しい資料はほとんどない。し

よねかわ ねんだい わかものことば とくちょう ひと
かし、米川 (1996) は、1970、80年代からの若者言葉の特徴の一つとして、
あ よねかわ ねんだい わかもの しょうひ たの じだい
「ノリ」を挙げている。米川によると、80年代は若者が消費を楽しんだ時代
あか わかもの ひじょう
であり、明るく、おしゃべりな若者には、そのときそのときの「ノリ」が非常
じゅうようし よ はな しょうりやくご たよう
に重要視され、テンポ良く話すために省略後も多用されたという。したが
って、「まじめ」が「マジ」へと変化したのもこのような理由が影響してい
へんか りゆう えいきょう
るのではないかと思われる。つまり、「ノリ」を重んじるために、「まじめな気持
ほんき い おも きも
ちで(本気で)言っているの?」というべきところを、「マジ?」とわずか2文字
しょうりやく かんが
に省略したと考えられるのである。

こんにち にほんじん いぜん かし かん
今日、日本人は「まじめであること」に以前ほど価値を感じなくなってい
ひと あらわ ことば へんよう
る。その一つの表れが「まじめ」という言葉の変容である。「まじめ」とい
ことば ひと ひていてき いみ くわ
う言葉に、「まじめなだけでつまらない人」という否定的な意味を加え、また、
もち ことば にほんじん
「ノリ」とともに用いられる言葉「マジ?」をつくりだした。これらは、日本人
たい たいど か めいかく はんえい い
の「まじめ」に対する態度が変わってきたことを、明確に反映したものと言
えよう。